

2021年度 個人研究実績・成果報告書

2022年 4月 25日

所属	人間社会学部	職名	准教授	氏名	中倉智徳
研究課題	ガブリエル・タルド経済心理学の現代的応用に関する批判的研究				
研究キーワード	社会思想史、19世紀フランス、経済心理学	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	10. 人や国の不平等をなくそう	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

昨年度1月に刊行した訳書『情念の経済学』（人文書院、2021年）の反響として、6月に立命館大学ものづくり質的研究センターの研究会において研究発表「ラトゥール以降のタルド・ルネッサンスについて——モノ、心理、技術」を行った。また、ラトゥールとタルドに関する基礎的な考察を進めることができた。

科研費の基盤研究（C）の「地域社会におけるケイパビリティに基づく福祉行財政の基礎理論——自治と自立の検討」（研究代表・村上慎司（金沢大学））に共同研究者として参加しているが、コロナのため実地調査を行うことができなかった。オンラインでの研究会等で継続して共同研究は継続していた。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

【著書・論文（査読なし）】

【学会発表等】

「ラトゥール以降のタルド・ルネッサンスについて——モノ、心理、技術」第1回ものづくりと質的研究研究会，立命館大学ものづくり質的研究センター，2021年6月15日，zoomにてオンライン開催

3. 主な経費

主に書籍購入に使用した。想定していたプリンター・スキャナーの更新は行わなかった。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【科学研究費】

基盤研究（C），2019~2023年度，分担，課題名「地域社会におけるケイパビリティに基づく福祉行財政の基礎理論——自治と自立の検討」（19K02156）